

講義名	対)教養特講 (生活科学)			
担当教員	辻本 乃理子			
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 4時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考
主題と概要				
<p>わが国の生活環境など急激な社会の変化、情報社会において、より快適な生活を営むために必要かつ正しい知識や能力を身につけることが求められている。また、人々が個性を尊重し多様性と共生社会の実現に向けての行動がますます重要になる。これらの行動のためには「個」を理解するとともに人間の生活を様々な視点からとらえ、「生活」とは何かを理解する必要がある。本講義においては、「生活」を理解するために家庭生活の中での「個」や「家族」のあり方、生活を営むための生活環境、衣食住を含めた生活環境、これらを含めた社会環境について学習する。高校家庭科までの知識があるが、大学では生活を科学的に考え、多様な視点から生活をとらえることにより、生活者として主体的に行動できるようになってもらいたい。</p>				
到達目標				
<p>本講義は対面授業とオンラインの平行開講科目です。各自、自分自身の受講形態を確認した上で受講すること。人間の生活をさまざまな視点からとらえ、生活とは何かを理解し、より快適な生活を営むために必要な基礎的知識を習得することにより、今後の生活に生かすことができる能力を身につけることができる。</p>				
提出課題				
講義中に課す小レポートおよび課題。提出方法は授業内での提出またはRYUKA Portalとしますが、講義中の教員の指示に従うこと。				
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
提出された課題の記述内容の紹介や評価コメントについては、講義中に行う。				
評価の基準				
<p>試験70%。 講義中に課す小レポートおよび課題30%。 課題点は内容の充実度、分量など総合的に判断し採点する。ただし、講義を妨害する行為がある場合は減点する。</p>				
履修にあたっての注意・助言他				
<ul style="list-style-type: none"> ・受講の内容を基に試験、小レポートを課すため毎回出席すること。 ・講義に出席のない状態は、講義に集中したい学生の迷惑になるため厳禁とする。 ・授業計画は、進行状況により多少前後、変更する場合がある。 ・プリントの配布は、講義中のみ行う。欠席した学生には配布しないので注意すること。 				

教科書				
.使用しない。				
プリント資料及び参考文献				
必要に応じてレジュメ、資料配付。参考文献については講義中に適宜紹介する。				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の概要説明、オリエンテーション 2. 生活とは何か 3. 家族の理解 4. 家庭生活の理解 家族の歴史 5. 家庭生活の理解 家族と家庭生活について 6. 家庭生活の理解 ライフ・ワーク・バランス 7. 生活経済の知識と理解 生活設計野考方 8. 生活経済の知識と理解 生活経済 命と幸せ 9. 生活経済の知識と理解 消費者保護と法律 10. 生活経済の知識と理解 消費問題と製品の表示等(その1) 11. 生活経済の知識と理解 消費問題と製品の表示等(その2) 12. 生活経済の知識と理解 13. 衣生活と被服のマネジメント 14. 住生活と住居のマネジメント 15. 本講義のまとめ、試験 				
本講義は対面授業とオンラインの平行開講科目です。対面授業受講者が一時的に通学困難となった場合はオンライン授業へ変更することはできません。通学困難となった場合は、別途課題について連絡します。				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<p>予習として、小・中・高校で学んできた生活総合での学びは習得しておくようにすること。また、新聞等で現在の生活や家族に関する人々の意識や行動についての思いや行動を知るようにすること。（30時間） 復習については、各回の講義で配布したレジュメ、資料を用いて各自内容理解に努めること。特に復習には力を注ぐこと。（30時間）</p>				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
生涯を通じて学ぶにあたっての基礎を築き、社会経済環境の変化に応じた教養を養うことができる。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
テーマにより教室全体との対話形式の講義も行う方針であるため、予習を行い積極的に発言ができるようにしておくこと。				
実務経験の有無及び活用				
備考				
本講義は対面授業とオンラインの平行開講科目です。対面授業受講者が一時的に通学困難となった場合はオンライン授業へ変更することはできません。通学困難となった場合は、別途課題について連絡します。				